

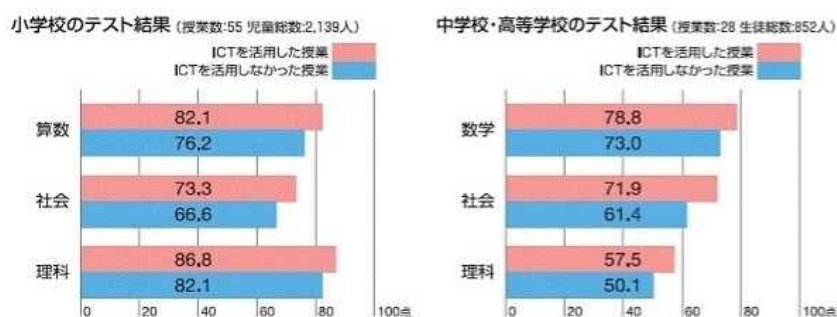
## 令和3年度学校教育の努力点とその推進計画

### 1 主題

#### 「わかった！」生き生きと学習に取り組む児童の育成 ～ ICT機器を活用した授業を通して ～

### 2 主題について

どの教科・学習活動においても、児童自身が興味関心を高くして学習課題に向かい合う必要がある。興味関心の高さは、理解力や思考力を生み出し高めることにとっても重要であることがわかる。その際、ICT機器を、授業の導入・展開・終末の場面に、適切に、有効に活用することで、児童の成果は上がることが紹介されている。



図：客観テストによって明らかとなったICT活用の効果

平成18年度 独立行政法人メディア教育開発センター

令和2年度途中より、担任に一人一台のタブレット端末が導入された。ICTを活用した学習活動には、各教科の目標を達成するための教師によるICT活用能力が求められる。目標達成のために、授業中に活用したり、授業準備や評価のために活用したりすることで、児童の興味関心を高められると考える。

これらのことから、有効に、適切にICT機器を活用して、学習に対する興味関心を高め、生き生きと学習に取り組む児童を育てていく。

### 3 努力点の推進方法

#### (1) 研究の中心

児童が学習に対する興味関心を高め、知識や理解を向上させるとともに、思考力や判断力を伸ばすことは、学校に関わる全ての人々の願いである。しかし、いくつもの課題を一度に解決するのは難しく、その迫り方も多岐にわたると考える。そこで、この主題における1年目は、以下に示すことを中心に研究を進める。

#### ○ 授業中におけるICT活用（AかBを実践する）

A 興味・関心を高める

B 課題を明確につかませる

(2) 児童の実態把握

学習に対する児童の興味関心を高める授業展開を、ICT機器を活用して計画する。興味関心の高まりは、実践後にアンケートや感想を書かせるなどして、有効性を検証する。

(3) 家庭や地域との連携

児童にも保護者にも推進の様子を浸透させていくために、学年だよりに努力点の児童の様子を定期的に載せていく。具体的には、前期・後期の実践後、研究授業の様子を記載したり、アンケートの結果を公表したりする。

年に1度は、授業参観で全学級努力点に関わる授業を公開し、家庭や地域に情報を提供する。ただし、プロジェクターやホワイトボードなど必要な機器が足りず、一斉に授業参観で保護者に公開することはできないことが考えられるので、授業参観時の努力点と位置づける授業については、事前に相談の上、実践学級を決定する。

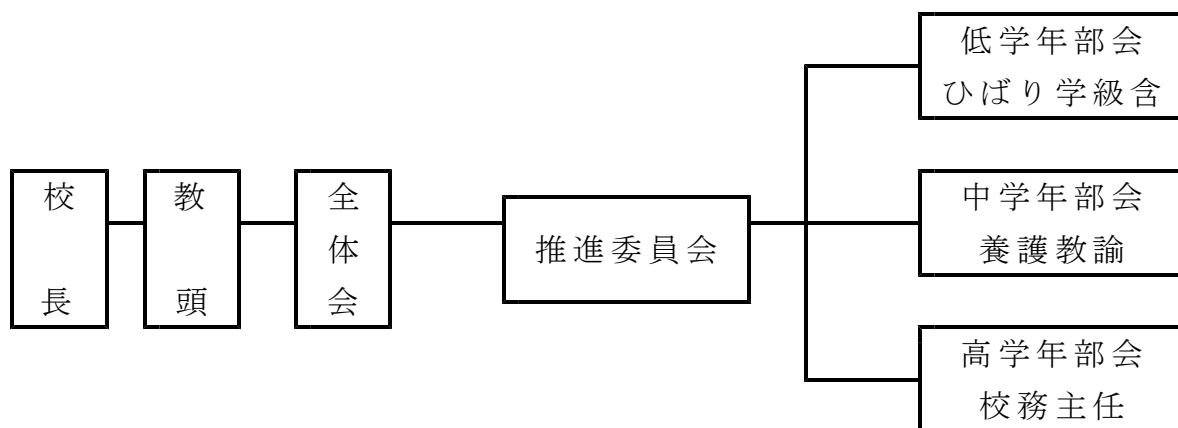
4 努力点推進の内容

(1) 授業実践は、各教員1実践を行う。部会は必要に応じて開き、実践後はできるだけ部員が集まって、事後検討会を行う。3部会では、前期・後期に分かれて行う。その際、指導案は全教職員に配布し、適宜参観できるようにする。

(2) 実践者は、指導の成果と今後の課題を報告書としてまとめる。

- ① 中間報告（9月）・・・活動のねらいや方法と前期の実践
- ② 最終報告（2月）・・・後期の実践と1年間のまとめ

5 研究の組織



## 6 年間計画

月	日	曜日	内容
4	9	金	努力点全体会
4	15	木	学年研究会
6	3	木	学年研究会
9	2	木	学年研究会
9	16	木	現職教育 努力点関係
9	10	木	努力点中間報告会
10	4	月	学年研究会
11	4	木	学年研究会
1	17	月	学年研究会
2	14	月	努力点最終報告会